

地域学校協働活動だより

インターネットでの枕崎市ホームページの検索方法

枕崎市地域学校だより

検索

ホームページ
QRコード発行
枕崎市
教育委員会
生涯学習課

枕崎市では学校応援団などのボランティアの方々が、コロナに負けずに子供たちと様々な地域学校協働活動を行っています。今月も市内で行われた活動を紹介します。

～歴史の講演と史跡などの現地学習で「郷土について学ぶ」～ 立神中学校

立神中学校1年の総合の時間で郷土学習の授業があり、枕崎市文化財保護審議会委員の牛山好治さんが、学校での講演と史跡などの現地学習指導を行い、1年生35人が郷土について学びました。

5月31日の講演では、枕崎と南方の島々のつながりを中心に話をされ、松之尾遺跡で発見された「ゴホウラ製貝輪」や、立神中学校には縄文時代の住居跡の遺跡が残っているという話をすると、生徒たちは熱心にメモを取りながら話に聞き入っていました。

6月3日の史跡などの現地学習では、午前中に硫黄山岩崎寺跡を見学して、枕崎と硫黄島のつながりを学習し、火之神公園での昼食後には、火之神の伝説や枕崎のシンボルである立神岩の説明がありました。

立神墓地内での「黒島流れ 99人溺死の碑」では、「明治28年に枕崎で最大の海難事故『黒島流れ』が起こり、枕崎全体で411人、立神地区で99人の遭難者があった。」などの説明があり、生徒達が慰霊碑を拝んでいました。



「99人溺死の碑」で「黒島流れ」の説明

～市役所 市民生活課が出前授業「ごみ問題」を学びました～ 枕崎小学校

枕崎小学校では、6月14日から17日までの間、枕崎市役所から講師の先生をお招きして、5年生2クラスと6年生2クラスの家庭科で「ごみに関する授業」を行いました。

市役所市民生活課の「環境共育出前講座」の一環で、環境整備係の水流さんが枕崎市で出されるごみの量や、ポイ捨て・不法投棄、ごみ問題に対する取組などの説明を行い、子供たちに「自分にできること」を考えてもらいました。



6年1組での出前授業の様子

子供たちからは「海や山にも多くのごみが捨てられていることに驚いて悲しくなった。」「これからは積極的にごみの分別やごみ拾いをしようと思った。」「今日の授業の内容を家の人に伝えたい。」などの感想がありました。

子供たちの環境問題に対する関心が高まった、意義のある出前授業になりました。

～創立記念集会で 前PTA会長が 熱い講演会～ 立神小学校

6月1日は、立神小学校の創立記念日です。今年で123周年を迎えますが、毎年様々な方を講師に迎えて全校生徒に講演をしていただいています。今年も、前PTA会長の日高真也さんに、ご自分の職業である保育士になった理由や魅力、指遊びの紹介、0歳～5歳までの発達の様子も交えながら、子供たちに熱く語っていただきました。

「人それぞれの発達の速さは違うので、皆さん一人ひとりのいいところを伸ばしてほしい。」「人に支えられたり、助け合い思いやりすること、人は多くの人と関わって、社会に適應するようになっていく。ぜひ、学校にいるいろんな友達と助け合って生活してほしい。」などの話がありました。

6年生からは、「知らなかった指遊び歌がありました。発達に合わせて指遊びを変えることや子供の発達について初めて知ることが多くありました。」などの感想がありました。日高さんには、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。



講演会で「指遊び」を紹介する日高さん

～琴と尺八の生演奏で七夕飾りと読み聞かせ～ 桜山地区公民館

桜山地区公民館の青少年講座「七夕飾りと読み聞かせ」が、6月25日に「琴聖会（きんしょうかい）」の方々の演奏と読み聞かせで、小学生11人と幼児2人も参加して行われました。



生演奏をBGMに「かぐや姫」の物語

琴聖会は、桜山地区公民館を拠点に活動する自主講座グループです。

生の琴と尺八の演奏で、「かぐや姫」と「笠地蔵」の弾き語りをしていただき、続いて、鬼滅の刃の「紅蓮華（ぐれんげ）」を披露してくれました。

子供たちは、熱心に琴と尺八の音色に聞き入っていました。その後短冊にも願い事を書いて、時間も忘れるくらい一生懸命七夕飾りを作ってくれました。

～民話を聞いて 心に残った場面の 絵日記作り～ 立神地区公民館

立神地区公民館の青少年講座「民話と絵日記」が、6月25日に立神海の風こども園「キッズ」で、立神海の風こども園と火の神保育園の学童の小学生24人が参加して行われました。

読み聞かせボランティアグループ「プーたんの会」の久木田弘子さんが、民話の読み聞かせをして、その後子供たちが印象に残った場面を絵に描き、絵の下に説明文を書いて絵日記作りを行いました。

この日は久木田さんが「カ（ちから）ばあさん」と「ちょうふく山のやまんば」の二つの民話を読んで聞かせましたが、子供たちが想像を膨らませて絵を描けるように、10～15分かけてじっくりと変化を付けて物語を読んでいます。

子供たちは、「やまんば」のいる「ちょうふく山」を画用紙一杯に描いたり、それぞれ想像力を働かせて楽しい絵日記を作っていました。



児童の絵日記を褒める久木田さん